

< 認知症対応型共同生活介護用 >

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<b>11</b>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<b>2</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<b>6</b>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<b>11</b>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4677400139
法人名	社会福祉法人 恵誠会
事業所名	グループホーム 花神荘
訪問調査日	平成 19 年 9 月 11日
評価確定日	平成 19 年 12月 3 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

**項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家 族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

特定非営利活動法人 - 社会保障制度活用支援協会

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 9月 24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4677400139
法人名	社会福祉法人 恵誠会
事業所名	グループホーム 花神荘
所在地	鹿児島県肝属郡肝付町後田2542-1 (電話) 0994-65-7666

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成19年9月11日
確定日	平成19年12月3日

## 【情報提供票より】 nenn

## (1) 組織概要

開設年月日	平成15年12月11日
ユニット数	2 ユニット
職員数	13 人
利用定員数計	18 人
常勤	13 人
非常勤	0 人
常勤換算	13 人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	1 階建て 1 階 ~ 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,700 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	780 円		

## (4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	6 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.6 歳	最低	73 歳	最高	96 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉川医院(内科)・みやぞの歯科
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム花神荘は多くの事業所を見学して理想的に建てられたホームで、モダンな外見と明るく、人に優しい内装・広い庭が利用者にとって生活しやすい場所となっている。職員は利用者本意のケアサービスを心がけており、美味しくバランスの良い食事、毎日の入浴、読み書き計算等、頭の体操など気遣いのあるケアをしている。公用車が2台あり、全員で弁当持参のドライブを楽しんでいる。又、医療機関との連携もよく安心安全である。近隣とのふれあい集合場所での行事参加もあり満足感と笑顔がある。今後更に利用者への希望にそった支援を心がけて地域のモデル的事业所となることを期待する。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	具体的な改善計画はないが、改善課題は殆ど検討しており、事業所の質の向上につながっている。ホーム便りも毎月発行しており、利用者の権利・義務の明示もあり、服薬、緊急時対応、感染症対策もよくなっている。チームケアの会議も毎月するようになり、市町村・地域との交流もよくなっている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の意義や目的を全職員に伝えて全員で話し合いながら取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	昨年7月から2ヶ月に一回の運営推進会議を開催しており、役場の担当者、民生委員、家族代表の参加で事業所の実態報告や地域の防災計画について話し合っている。役場担当者との協力関係が深まり、勉強会や同業者との交流の仲介役等前向きな取り組みをしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月ホーム便りを発行して、事業所からのお知らせや利用者の暮らしぶり、健康状態、金銭出納等の報告をしている。相談・苦情に対する言いやすい環境づくりをしており、特に面会時に話し合っている。必要に応じて電話で話している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の振興会長との交流があり、近くの集会場での行事に参加している。隣り近所との交流もあり、近くの24時間営業のスーパーマーケットとの交流もある。

## 2. 評価結果 (詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	パンフレットに「地域や自然に触れながら、自分らしく自由に落ち着いた、家庭的な雰囲気の中で共に手を取り合う、そんな満たされた毎日を…」とあり、事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員が、理念の実践のために日々努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域振興会長との交流があり、近くに集会所があるため様々な行事に参加している。老人会、婦人会、子ども会とのふれ合いもある。(十五夜、花見、夏祭り、鬼火焚き、相撲大会等)		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解しようとする姿勢があり、各項目毎に全職員で話し合っている。前回の外部評価に対する具体的な改善計画はないが、全体的に検討しており、サービスの向上にむけて取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年7月から2ヶ月に一回開催しており、役場の職員、民生委員、家族代表を加えた7名のメンバーで話し合いや実情報告をして協働関係が作られてきている。会議録に内容が詳しく記入されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の窓口が活用しやすくなり、役場担当者主催による講師を招いた勉強会もあった。同業者との交流会の仲介役にもなる予定である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時や電話で報告している。ホーム便りを毎回発行しており、ホームからのお知らせや利用者の生活ぶり、健康状態を報告している。金銭出納に関する記録は確実にしており、3ヶ月に1回報告し、認印をもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等からの相談、希望が言い易いような雰囲気づくりを心がけており、民生委員や振興会会長等の意見も参考にして、サービスの向上に向けて努力している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着率は良好継続して働いている人が11名と多く、関連施設からベテランの職員の異動のみで利用者への影響は殆どみられない。全員常勤である。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回の勉強会で研修報告や事例検討をしており、介護録に詳しく記録している。出席率もよく時間外手当も出るようになってきている。年間計画を立てて担当者を決めるなどは行っていない。		計画的な学習会を担当者を決めて行うと職員の意識、意欲が高まることが期待される。又、効果的な事例が多くあるので事例を記録に残すことが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当花神荘の建立に先立って多くのほかの事業所を見学して設立しており、交流している。又、同業者との交流会は市町村の担当者により、計画中である。		同業者との交流をすることのメリットを活かして研修会や事例検討会、意見交換等を行い、ケアサービスの向上に活かすことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に本人や家族の見学や体験入所、自宅訪問などして徐々に馴染めるような工夫をしている。知人が入所しているから、希望した例もある。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者本位の支援を心がけており、人生の先輩として学ぶ姿勢や支えあう関係作りをしている。(農作業、料理、会話等)</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アセスメントにより、本人家族の希望や思い、意向を把握している。困難な場合は日々の行動や表情から反応に合わせて支援方法を考えている。</p>		
チームでつくる利用者本位の介護計画					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者本意の計画のために本人、家族、職員等が話し合って作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回は見直ししている。必要に応じて柔軟な計画の見直しをしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	2週間に1回の往診がある。状態により通院支援やオンコール体制がある。車が2台になったため、ふるさと訪問、墓参り、ドライブ等要望に応じて支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院による医療支援がある。本人、家族へ医師から病状説明もしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	急変時の連絡体制が決められており、重度化した時は、その都度、医師、家族、職員等と話し合って入院等の対応をしている。運営規定と契約書による説明をしている。管理者が看護職であり、オンコールですぐ対応している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損ねないように気配りや声かけをしており、食べこぼしや入浴、排泄支援には特に配慮している。写真を貼る時も家族の同意を得ている。個人情報の取り扱いにも細心の注意をしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は決めているが、一人ひとりのペースを尊重して入浴は毎日でもできる。起床は朝食まで待つ、眠くないときはテレビをみたり、話し相手をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	能力に応じて食事の一連の作業を一緒にしている。職員は利用者と一緒に食べながら、さりげなくサポートしている。好みの食物を聞いて献立を作っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を楽しみにしている人が多く毎日入浴支援をしている。拒む人には清拭や、更衣等をして機嫌のよい時に入浴してもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	エレクトーンを持ってきている人が毎日弾いていたり、新聞や本を読んだり、日記や手紙を書く人もいる。戸外の木の下で長椅子に座ってパズルをしたり歌を唄ったりしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くのスーパーへ買い物に行ったり、庭の菜園での農作業で大気を感じている。ウッドデッキもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関には鍵はかけていない。対面式の台所や職員の控え室から玄関が良く見えて利用者の動きも分かるようになってきている。玄関付近はガラス格子になっていて動きが分かる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者がおり、消防署による消火非難訓練を実施している。自主避難訓練もあり、地域との連携・話し合いもできつつある。非常食は米・水・カセットコンロがある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	以前の栄養士による献立を参考に入所者の好みの食材で調理している。バランスも良く1日1500kcalを目指しており、月1回の体重測定で確認している。水分はしっかりチェックしており、1500ccを目指している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	多くのグループホームを見学して造られた建物であり、高い天井・明かり取り窓・対面式の台所・職員の控え室も顔が合う造りとなっており、居室を出るとすぐ共用の場所があり、合理的で明るく清潔で人に優しい空間となっている。ソファー・畳の部屋・ウッドデッキもある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	常備しているものは、ベット・タンス・クローゼットであとは好みの机・椅子・座椅子・炬燵・テレビや位牌・写真・衣装ケース・観葉植物・エレクトーンが持ち込まれている。		